

令和2年度

事業報告



社会福祉法人

あじさいの家

令和 2 年度事業報告 目次

目次

1、あじさいの家 基本理念	1	◎行事	9
1) 目的	1	◎交流	9
2) 運営方針	1	◎実習	9
3) 重点項目	1	◎安全・防災	9
2、日課	1	◎医務・健康	10
3、運営組織図及び担当	2	◎研修	10
4、利用者及び職員状況一覧	3. 4	【生活介護】	
5、年間行事報告一覧	5. 6	◎活動	11
6、業務報告及び活動報告	7	○ミーティング	11
◎運営	7	○創	11
◎職員会議	7	○楽	11
〈総務部〉	7	○動	11
◎広報	7	○人形劇	12
◎施設管理	7	○個別外出	12
◎防災管理	8	【日中一時】	12
◎車両管理	8	【短期入所】	12
〈支援部〉		〈事務部〉	
◎ケース会議	8	◎庶務	12
◎支援計画	8	◎経理	13
◎摂食	8	☆全体を通して	13

1、あじさいの家 基本理念

1)目的

障がいの程度にかかわらず、一人ひとりが日々充実して過ごし、生活の幅を広げながら地域生活を送ることができるよう支援することを目的とする。

2)運営方針

- ・日常生活において、生きがいを持って豊かに暮らすことができるように支援する。
- ・安全で健康的な生活を送ることができるよう支援する。
- ・一人ひとりの持つ力が発揮できるよう支援する。

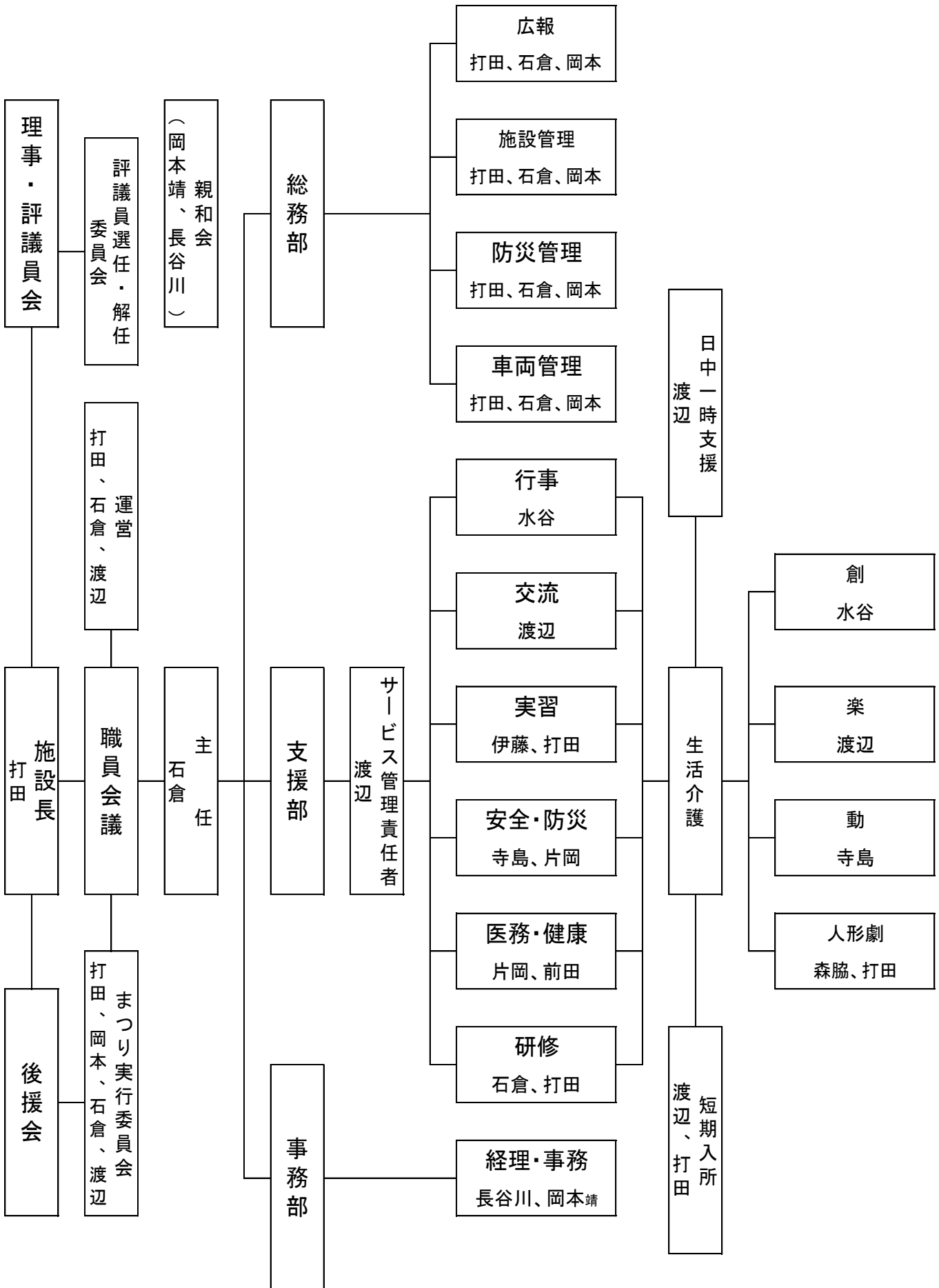
3)重点項目

- ・一人ひとりの個性を尊重し、自己表現できる場や機会を設定する。
- ・一人ひとりの障がいの特性を的確に把握し、体調の変化には絶えず留意する。
- ・地域とのかかわりを大切にし、社会資源を有効に使ったり、地域に積極的に出かけて行ったり、いろいろな体験をすることで生活の幅を広げる。
- ・居宅生活が安心して送れるよう支援する。

2、日課

8:30 職員打ち合わせ	14:00 午後の活動
8:40 送迎及び準備	15:15 片付け 帰宅準備
9:30 活動準備	15:45 帰りの会
10:00 朝の会	16:00 帰宅(送迎)
10:30 午前の活動	16:00 記録(清掃)
11:40 昼食準備	16:30 会議(活動準備)
12:00 昼食 休憩	17:30 帰宅

3、運営組織図及び担当



4、利用者及び職員概況一覧

1、利用者の状況

(1) 通所状況

利用者定員 20名

利用者実数 20名

(2) 入退所状況

令和2年度 新規利用者 男性 0名 女性 1名

令和2年度末 退所者 男性 0名 女性 0名

(3) 曜日別利用者数

曜日	月	火	水	木	金	1日平均	昨年度
男	10	10	11	13	13	11.4	11.8
女	3	2	2	4	2	2.6	2.6
計	13	12	13	17	15	14	14.4

(4) 通所市町

市町	いなべ市	東員町	桑名市	四日市市	菰野町	計
男	8	3	3	0	1	15
女	3	0	0	2	0	5
計	11	3	3	2	1	20

(5) 年齢別在所者数

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	計	平均年齢
男	0	6	5	2	2	15	36.6歳
女	0	0	3	0	2	5	42.0歳
計	0	6	8	2	4	20	38.0歳

(6) 施設在所者数

平均在席年数 13.8年

在籍年数	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	計
男	0	0	0	1	8	6	15
女	1	0	0	0	2	2	5
計	1	0	0	1	10	8	20

(7) 障害手帳保有状況

	1種		2種	計
	1級	2級		
男	12	3	0	15
女	4	0	0	4
計	16	3	0	19

(8) 障害程度(療育手帳判定による)

	A 最重度	A 重度	A1	A2	計
男	6	4	1	2	13
女	1	2	0	0	3
計	7	6	1	2	16

(9) 障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分3～5	区分 6
男	0	0	0	15
女	0	1	0	4
計	0	1	0	19

(10) 日常生活状況

・移動 ※ 自力歩行、自助具を使用される方は、車椅子も併用している。

	自力歩行	車椅子使用	補助具移動	自力	半介助	全介助
男	1	15	1	0	2	13
女	1	4	0	1	0	4
計	2	19	1	1	2	17

・排泄

	自立	見守り	全介助
男	0	2	13
女	1	0	4
計	1	2	17

・食事

	自立	見守り	半介助	全介助
男	0	2	1	12
女	1	0	3	1
計	1	2	4	13

・食事形態 ※ 口からの摂取と経管栄養の併用有り

	普通食	普通食(一口)	刻み	ペースト(重複)	経管(胃瘻)	経管(鼻腔)
男	0	3	0	12(5)	4	1
女	1	3	0	1(1)	1	0
計	1	6	0	13(6)	5	1

・医療的ケア状況

	口腔内吸引	気・切吸引	胃瘻	鼻腔	導尿	導尿留置
男	6	0	4	1	2	2
女	1	0	1	0	1	0
計	7	0	5	1	3	2

(11)各事業別利用状況

生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	164	133	171	167	125	153	173	150	157	142	153	180	1868	156
東員町	66	51	64	61	52	58	65	60	59	57	60	67	720	60
桑名市	47	41	44	33	37	43	38	34	31	34	35	38	455	37.9
菰野町	8	6	7	7	7	8	8	8	8	6	6	9	88	7.33
四日市市	11	8	10	7	8	9	11	9	8	8	9	10	108	9
合計	296	239	296	275	229	271	295	261	263	247	263	304	3239	270

日中一時

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	14	16	17	17	16	17	17	15	9	14	3	14	169	14.1
東員町	1	0	4	5	4	6	4	4	3	4	1	4	40	3.33
桑名市	2	1	4	1	5	5	4	2	1	2	1	2	30	2.5
合計	17	17	25	23	25	28	25	21	13	20	5	20	239	19.9

短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
いなべ市	0	0	0	0	2	0	0	0	3	1	1	0	7	0.58
東員町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.08
桑名市	0	0	0	1	11	15	0	0	0	0	0	0	27	2.25
菰野町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四日市市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	13	15	0	1	3	1	1	0	35	2.92

2. 職員の状況

(1)就退職状況

令和2年度新規採用者 男性 0名 女性 2名
 令和2年度内退職者 男性 1名 女性 2名

(2)職員状況

職名	正規職員		パート職員		業務委託職員		計
	男	女	男	女	男	女	
施設長	1						1
副施設長	1						1
サビ・管		1					1
支援員		5	2	7			14
看護師		1		1			2
事務員				2			2
調理員				2			2
運転士			1		1		2
計	2	7	3	12	1	0	25

※支援員の常勤換算人数 11.5人

5、年間行事報告一覧

	法人関係	施設運営関係	行事	交流
4月	辞令交付(1)	職員会議(14.16.19.21) 安全点検(23)		マスの放流(3)(中止)
5月	法人監査(28)	安全点検(14) 職員会議(19) ケース会議(19) あじさいの家まつり(中止)		
6月	法人理事会(書面決議) 評議員会(書面決議)	安全点検(4) 職員会議(16) ケース会議(16)	誕生会(11)	
7月		安全点検(8) 職員会議(14) ケース会議(14)	七夕会(7) 誕生会(16)	
8月		安全点検(5) ケース会議(5) 職員会議(11.21)	誕生会(28)	ジュニアアンサンブル (中止)
9月		安全点検(3) 職員会議(15) ケース会議(15)		
10月	いなべ市指定管理監査(28) 法人理事会(中止)	安全点検(8) 職員会議(13) ケース会議(13) 避難訓練(14)		
11月	評議員会(中止)	安全点検(7) 職員会議(10) ケース会議(10)	誕生会(19) あじさいの家餅つき(中止)	いなべ市障がい者 スポーツ交流会(中止)
12月		安全点検(3) 職員会議(15)	誕生会(14) クリスマス会(24) お楽しみ会(24)	ヘルマンハーブ演奏会 (中止) いなべ市人権フェスティバル (中止)
1月		安全点検(13) 職員会議(19) ケース会議(19)	誕生会(14) 初詣(中止)	
2月		安全点検(10) 職員会議(16)	誕生会(25) 節分(2)	地域交流会 大安イオンにて (2/27～3/28)
3月	評議員選任・解任委員会(17) 法人理事会(書面決議) 評議員会(書面決議)	避難訓練(9) 安全点検(17) 職員会議(9.23.31)	桃の節句(2.3)	

	実習	医務・健康	研修	人形劇
4月		体重測定(13)		
5月	いなべ中学校勤労体験 (中止) ユマニテク実習 (1月以降に延期)	体重測定(7)		
6月	ユマニテク実習 (1月以降に延期)	体重測定(11)	井後PT訓練会(6)	
7月	いなべ市職員新人研修 (中止)	体重測定(9) 平山医師健康診断(中止)	井後PT訓練会(14) きらら学園研修会(中止)	
8月	皇學館大学学生実習 (17～21)	体重測定(6)	井後PT訓練会(11) 多田T訓練会(中止) 静的弛緩誘導法研修(中止)	
9月		体重測定(7) 健康診断 (9.11.16.18.23.25.30)	井後PT訓練会(8) 古川PT研修会(25)	
10月	皇學館大学学生実習 (19～23) ユマニテク実習(中止) 北勢中学校勤労体験 (中止)	体重測定(5) インフルエンザ予防注射(26)	井後PT訓練会(13)	
11月	皇學館大学学生実習 (9～13)	体重測定(9)	井後PT訓練会(10) 施設内研修(24) (井後PTによる摂食について)	メシエレ(中止) 三里保育園(中止)
12月		体重測定(10)	古川PT研修会(中止)	
1月	ユマニテク実習 3名 (20～22.27～29)	体重測定(12)	井後PT訓練会(19)	
2月		体重測定(4)	井後PT訓練会(16)	
3月		体重測定(4)	井後PT訓練会(16)	

6、業務報告及び活動報告

◎運営

施設の運営全般に関わる内容が円滑、迅速に行うことが出来るよう計画、調整をした。特になかまの日々の支援や活動、生活などについてはスムーズに機能するよう対応してきた。運営会議は職員会議の前に実施することが多かったが、緊急時には短時間でも話し合いの時間をもち、対応を検討し職員同士の共通理解を深めるよう努めた。

今後も運営会議の時間を確保すると共に、職員同士の共通理解を図り、なかまの支援が円滑に行えるよう努める。

◎職員会議

今年度もなかまや家族の協力のもと、月1回定期的に実施することが出来た。行事や活動の確認、施設運営についての話し合いを行ったが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、行事がほとんどなかったため、なかまの現状を把握し共通理解の時間を多く持つことが出来た。

また、緊急時には臨時会議を持ち施設運営がスムーズに行えるよう配慮してきた。ただ、パート職員の勤務体制もあり、全員の参加は難しいのが現状だった。欠席者については議事録での確認を基本としたが、内容(重要性、緊急性)によっては、直接伝達の時間の必要性を感じた。

来年度も定期的な開催、必要に応じて臨時会議を持ち、なかまが安心して生活することができ、施設運営全体を円滑にすすめられるよう時間を確保していきたい。

〈総務部〉

◎広報

今年度も広報「あじさい」と「かわら版」の発行をした。今年度は新型コロナウイルスの影響で、行事(対外)、交流、人形劇等の対外的な活動はほとんどなかったため、なかまの活動の様子が主な内容となった。

室内掲示板は施設内に外部の方がほとんど入ることが出来なかったため、主になかまや職員が季節を振り返れるものとなった。屋外掲示板については季節に応じた内容と歌を意識した。掲示板を見ていた近所の方から「楽しみにしている」と声をかけていただき、コロナ禍であっても、あじさいの家のなかまが、変わらず元気で過ごしていることをアピールできたのではないと思う。

来年度も広報誌やHPなどで、あじさいの家の取り組みやなかまの様子、行事の案内などを発信していきたい。

◎施設管理

当施設に移転してから10年がたち、建屋及び設備の老朽化が懸念されたが、幸いにも大きなトラブルはなかった。月1回の安全点検は、施設管理を行う上で基本的なものとなるので、今年度も定期的に行った。大きな問題はなかったが、築10年が経過したこともあり、設備面での不具合には、十分注意していくことが大切である。

◎防災管理

今年度も火災報知機の年2回の法定点検(業者委託)と、避難訓練を2回実施した。昨年度の消防署の立入り検査で指摘された、新基準に準じた消火器の設置については、年度内に行うことが出来た。来年度は安全点検時に、スプリンクラー設備の点検も重視していきたい。

◎車両管理

今年度も事故無く安全に車両を運行できた。しかし、昨年にも挙げたが、使用年数の経過による車両の故障があった。特にリフト部の故障に関しては、既存の修理工場では対応できないこともあったり、代車が借りられず送迎の運行に支障があった。日頃のメンテナンスは大切であるが、車両をリースに変更する方法も考えていく必要性を感じた。

〈支援部〉

◎ケース会議

職員会議終了後、ケース会議に切り替えて実施し、なかまについての情報交換や、支援の方向性について職員全体の意思統一の場となった。

緊急事案については、その都度短時間でも話し合いの時間を持ち、職員の共通理解に努めた。

来年度もなかま一人ひとりに合った支援が行えるように、職員の共通理解、意思統一の時間として確保していく。

◎支援計画

懇談を基に、本人の思い、あじさいの家での様子から、生活の充実を図り計画をたてた。個々への対応や具体的な支援内容については、職員間で意思統一し、共通理解を深めた。

年度末には、来年度の計画に向けての懇談会を行った。コロナ禍により本人の思いが達成出来なかったこともあったが、個々の思いを受けとめ次年度に繋げていく。

来年度もそれぞれの意見や本人の環境、体調の変化に配慮し、あじさいの家での生活が充実したものとなるよう、支援の内容を決めていく。

また、計画と異なる事態が起きた時には、その都度話し合いの場を持ち、適切に対応していく。

◎摂食

なかまと職員のゆったりとした昼食の時間は、大きな問題もなく無事に過ごすことができた。

しかし、食事時の痰の増加や緊張、加齢に伴うむせなどが度々見られた。そのためその都度、一人ひとりに応じた摂食が出来るように、なかまの特徴やその日の体調を把握し、食事量の調整や経管栄養に切り替えるなどの対応を行った。また、なかまだけでなく職員にとっても苦痛のないポジショニングを考え、安全かつ事故の無いよう対応した。

今年度は、井後 PT により職員を対象にした摂食の研修をしていただいた。職員同士がなかまの立場に立って実習を交えて行えたことは貴重な時間となった。

今後もなかまの体調の変化などに気を付け安全で楽しい時間になるように努めていきたい。

◎行事

今年度もなかま一人ひとりが主役になれる誕生会をはじめ、日本の伝統文化である節分や桃の節句、七夕などの行事を行った。なかまと共に季節の移り変わりを五感でも感じられるような工夫も取り入れた。

今年度の誕生日プレゼントはエコバックを手作りした。世の中のニーズに合わせてと同時に今後自分達の生活が通常の生活に戻った時にこのバックを持って皆と一緒に買い物に出かけるという楽しみの一つとして作ったものである。

また、餅つき大会の中止により花もちの材料を紙粘土に変更し作成した。出来上がった作品は、クリスマス会でツリーと見立てて飾り付けることができ、華やかな会場づくりに役立って良かった。

恒例行事となっている初詣やイルミネーション見学は、感染予防として実施できなかったのは残念ではあったが、今後もなかまの体調や周囲の環境に留意しつつ、季節の移り変わりを感じ、楽しめるような活動にしていきたい。

◎交流

今年度は新型コロナウイルスの影響により、例年行ってきた地域との交流行事やあじさいの家での交流活動等がすべて見合わせとなり、なかまにとって社会参加出来なかった事や、他の人との出会いがなかった事は残念だった。しかし、今後もこれまで築いてきた地域の人達のかかわりを大切に、再開出来る時期がきた時には、今まで通り積極的に参加をしていきたい。

またその為にも、日頃なかまの体調の万全を心掛けていこうと思う。

◎実習

今年は新型コロナウイルスの拡大防止の為、中学生・高校生の職場体験実習が中止となった事が残念だった。しかし、感染防止対策をしっかり行った上で大学生とユマニテク医療福祉専門学校の学生の実習は実施できた事はとても良かった。なかなか外出も出来ず、外部のかかわりを持つことが難しい環境の中だったので、なかまや職員もよい刺激を受けることができ、ともに有意義な時間を過ごす事が出来たように思う。

新型コロナウイルスの情勢に留意しつつ、来年度も積極的に実習生を受け入れていきたい。

◎安全・防災

避難訓練は活動中に地震があり、その後火災が起きたと想定して10月と3月に実施した。10月の訓練後には、水害時の映像や災害時の体験話を聞き、現実問題を受け止め、意見交換しあう場を設けた。訓練の反省で出された防災頭巾の置き場を考え、頭を守る、声を掛け合うことなどは2回目の訓練では意識できた。訓練全体を通しての問題点としては、ほとんどのなかまが車椅子を利用していることで、迅速かつ安全な移動は難しく困難である。そのためには、いつ来るか分からない災害に備え、色々な災害の形を想定し、シミュレーションでの訓練や意見交換、反省会の必要性を改めて認識した。

安全点検では月一回、定期的にも実施することが出来た。点検する中で備品等の破損を修繕し改善した。

来年度も毎月の安全点検と年2回の避難訓練を実施し、なかまや職員の安全を考えていきたい。

◎医務・健康

今年度は年度当初より、新型コロナウイルスによる感染予防の強化に努め、なかまの健康状態を把握しながら健康管理を行う一年となった。

登所前の体温や体調面の様子を保護者から伺い、その情報を職員間で共有した。活動中の体調不良時には、保護者と連絡をとり対応した。中には保護者の判断で安全面を優先され、登所を見合わせるケースもみられた。

職員に関しては、マスクの着用、出勤前と昼食介助前の検温、手指消毒を徹底し自己管理に努め、なかまの帰宅後は、施設内の換気と消毒を行った。幸いにも今日までインフルエンザも含めて感染者が出ることなく、なかまも職員も元気に活動を楽しめたことは良かった。今後の感染対策の意識付けにもなったと思う。

例年の健康診断は病院での受診ということもあり懸念されたが、なかまと職員が万全の注意をして予定通り実施した。

今年度から、平山医師(どんぐり診療所)が嘱託医となられた。顔合わせとして5月の健康診断を受けることになっていたが、コロナ禍のこともあり見送ることになった。しかし、インフルエンザの予防接種はなかまの状況を配慮していただき、保護者の希望者と職員を含めて当施設で行うことができた。

体重測定に関しては、毎月の増減を確認し、日常生活の情報を元に食事の摂り方を工夫するなど保護者と相談する時間を持つようにした。

今年度は、医療的ケアに携わる職員を中心に不定期ではあったが医療的ケア会議を行い、なかまの情報共有や手技の注意事項の確認などを行い、内容によっては職員会議で報告したり記録を閲覧できるようにした。今後もなかま一人ひとりに必要な共通認識を深めるためにも必要な時間だと思う。

まだまだ油断できない日常ではあるが、今後も引き続き感染予防に努め、なかまの健康を守り、楽しい毎日を過ごすことが出来るように心がけていきたいと思う。

◎研修

今年度は新型コロナウイルスの影響で、多くの研修会が中止やリモートとなったことは残念だった。

しかし、その中でも井後 PT と契約を交わし、6月から月1回訓練研修を行うことが出来た。身体の各部位の動かし方や触れ方など、基礎的な内容を中心に教えていただいた。また、なかまの帰宅後、摂食の研修会を持ち、改めて介助時の重要点や注意点を確認することが出来た。

「子ども心身発達医療センター」の古川 PT にも1度ではあったが、来ていただき訓練研修を行うことが出来た。しかし、毎年来ていただく、多田先生や支援学校の奥山先生については、新型コロナウイルスの影響で、実施できなかったことは非常に残念なことであった。

来年度も可能な限り、外部の研修会に参加し、職員のスキルアップをはかり、なかま一人ひとりが心身ともに健康で過ごすことが出来るように繋げていきたい。

【生活介護】

◎活動

今年度は新型コロナウイルスの影響で、対外的な活動は見合わせとなり残念だったが、「創」、「楽」、「動」それぞれが、今現在できる範囲内で毎日を楽しく過ごせるような内容を考え一年間を過ごすことが出来た。

今後もあじさいの家の基本理念を忘れることなく、なかまが主体的に取り組める活動を目指していく。

○ミーティング

今年度も週の初めに一週間の予定や様々な連絡事項を確認することで、毎日の生活に見通しが立ち、関心、意欲を持って活動や行事に参加することができた。日付や曜日、天気を積極的に、伝えてくれるなかまもいた。

皆で予定を確認し合い、なかまの様子や興味のある出来事など意見を交わすことで互いの様子を知り、コミュニケーションを深める貴重な時間となった。

今後も和やかな雰囲気の中、互いに共有できる大切な時間として活用していきたい。

○創

- ・マスク ・壁面 ・苺餅 ・索餅(七夕菓子) ・スイートポテト ・たこ焼き
- ・ベビーカステラ ・ファッションショー用衣装 ・松ぼっくりのツリー
- ・年賀状 ・熊手 ・巻き寿司&紙粘土皿 ・メッセージカード など

今年度はなかまからの要望でもある調理も積極的に行った。調理や創作活動に取り組むにあたり、季節や素材を五感全体で感じることができるよう配慮した。

クッキーに関しては感染症対策として活動の景品などのみ提供した。

今後もなかまの意見を取り入れつつ「つくる」楽しさを味わえるような活動にしていきたい。

○楽

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、施設内での活動等は制限されてしまう事もあったが、文字通り楽しむことを目的とする時間としては、充実していたと思う。

みんなの気分転換となり、活気を得る時間となるよう取り組み、なかまの笑顔や歓声、リラックスした表情が見られてよかった。

来年度も社会の情勢に応じながら、その時期に楽しめる活動を精一杯考えていきたい。

○動

ボールプール、エアートランポリン、ハンモック、サイコロゲーム、玉入れ、借り物競争、障害物競走、じゃんけんランニング、散歩、かくれんぼ、すごろく、足湯、パン食い競争など

身体を動かすことを中心に、週一回の訓練と身体の実施を心掛けてきた。

訓練では基本1対1の対応で、なかま一人ひとりの課題に合わせて行ったり、歌に合わ

せながら体に触れ、ゆったりとリラックスできる時間にした。また、身体ではハンモックやエアートランポリンなどの遊具を使い、大きく体が揺れたり弾んだりと普段では味わえない感覚を体験し、豊かな表情を見ることができた。活動室や廊下など広い空間を利用して大きな動きの活動をすることもできた。今後も体調に留意し、楽しみながらなかまが心身ともに健康に活動できるよう活動内容を考えていきたい。

○人形劇

今年は新型コロナウイルスの影響により、外部との接触を控える事でなかまの安全を第一に考え、予定されていた人形劇公演がすべて見合わせとなり残念な一年となった。

公演のない時間を利用して新しい劇に取り組んだり、いろいろな人形劇を鑑賞する機会を持ってよかったと反省している。

来年度も状況を見ながら無理のない範囲で活動を行っていきたい。

○個別外出

今年は新型コロナウイルス感染防止のため、実施出来なかった。個別外出はなかまがとても楽しみにしている活動の一つなので、たいへん残念であった。

来年度は新型コロナウイルスの情勢を見て、検討していきたい。

【日中一時】

今年度も基本週2回の(月・水)入浴サービスを中心に行ってきた。家庭の事情やなかまの必要性に応じ、他の曜日も追加するなど対応してきた。本人の体調には充分配慮すると共に、介助等については事前に確認し、安全でリラックスできる入浴を心掛けてきた。

また、生活介護の時間延長や、休日利用に関しては、年々緊急時での必要性が増していると感じた。緊急時の対応はスムーズに出来たが、職員の配置に関しては検討していく必要がある。今後も、各家庭の事情を踏まえながら、保護者との連携を図り体制を整え実施していく。

【短期入所】

今年度も家族の不安解消に向け、緊急時に対応した。家庭の事情や環境の変化、なかまの加齢に伴う体調の変化等で利用の状況を見ると、改めて日中一時と並行して、緊急時の対応の必要性を感じた。

将来は安心できる場所として、もう一步踏み出すことが課題である。

また、家族のレスパイト的な利用も必要ではないかと思う。その為には日中活動と合わせて、なかま一人ひとりの体調に配慮し、医療的ケアの必要な、なかまにも対応し、安全を確保すると共に、安定した職員の配置も検討していかなければならない。

今後も、安心して利用できる場として取り組み実施していく。

〈事務部〉

◎庶務

施設内の文書管理及び備品、消耗品等の管理を行った。文書については、保存年数が長くなってきたので、整理が必要となってきた。また、備品や消耗品の管理についても同様に、見

直すことが必要である。

◎経理

施設会計及び法人本部会計等、すべての会計管理を行った。会計事務所の専門的なバックアップにより確実な会計管理を行うことができた。また、データをクラウドで保管できるようになったことは、あじさいの家の現場と会計事務所が同時に操作できるので、作業のタイムロスがなくなった。

☆全体を通して

今年度は、昨年度末より広がり始めた新型コロナウイルスの感染拡大が、大きく影響した1年となった。ほとんどの行事は中止を余儀なくされ、特に対外的な交流は、実施に伴うリスクを考えるとやむを得なかった。また、新型コロナウイルスの実態が今ひとつわかりにくいことから、過度の心配や間違った情報にも配慮が必要であった。しかし、利用しているなかまや関係者においては、大きな影響がなかったことは幸いであった。また、病気や怪我などでの入院もなく、無事に過ごせた。来年度も、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大には、十分な注意が必要である。

職員の体制は4月と9月にパート職員2名が採用となったが、うち1名(4月採用)が12月末で退職となった。1年を通して、なかまの出席状況にもよるが、ほぼマンツーマンでの対応が出来た。

今年度より希望者には月2回の入浴ディを設けた。それに関連して、月に1回、近所の理容師が訪問して、あじさいの家でカットをしていただくことが出来るようになった。また月に1回は全員送りの日とした。以上のことは、なかまと家族からのニーズが多く聞かれるようになったため、実施に至った。入浴ディにおいては、お風呂を楽しむことを大切にしたい。ただ、職員の配置の点から、入浴しないなかまの活動が、ある程度制限されることはやむを得なかった。全員送りにおいては、いろいろな訪問サービスを利用するなかまが多くなってきたため、帰宅時間が限られるなかまも多く、配車が難しい面も見られた。しかし、家族からは負担の軽減になっているという声も聞かれた。今後もいろいろな場面に配慮しながら、なかまにとっても楽しい活動の一つとして、また、家族にとって負担軽減となるよう努めていきたい。

生活介護事業においては、前記した通り、新型コロナウイルスの影響で活動に大きな影響があった。しかし、感染の予防を徹底しながら、いろいろな活動を行った。行事や外出など、なかまにとって楽しみな活動に制限はあったものの、出来る範囲での内容については充実出来たのではないかとと思われる。来年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分注意し、活動を工夫していきたい。

日中一時支援事業においては、引き続き月、水曜日の生活介護事業終了後に入浴を目的とした利用と、休日の利用や利用時間の延長が必要な場合に対応した。なかまとその家族にも、日中一時支援事業の利用は定着してきているように見受けられる。

短期入所事業に関しては、主に緊急時の対応として実施に至ったが、今年度は実際にいろいろな事情での利用があった。必要なときに迅速に対応が、出来たと思われる。なかま一人ひとりに合わせ、複数で対応するなど、その場面に合わせたことが、スムーズな事業展開になったと思われる。今後もいろいろな場面で利用できるようにしていくと共に、職員の体制も考えていかなければならない。

今後もなかまとその家族がこの地域で安心して暮らせるよう、引き続きみんなで行ってみたい。

令和2年度

